

志教育の 視点	☑かわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
------------	---------------------

活動名	<大学模擬講義>
教科・領域等	「総合的な探究の時間」2単位時間相当
活動学年等	第1学年及び第2学年
ねらい	生徒一人ひとりが自身の興味・関心及び進路希望に応じて講座を選択し、各領域における学術研究の内容や職業との関連性等を踏まえた大学教授等による講義を通して、学問分野の理解を一層深めるとともに、物事を探究する姿勢・態度を育成し、進路意識の高揚及び進路実現に向けた今後の進路学習の動機付けを図る。

【実践内容】様々な学問分野で活躍している大学の教授等による講義やワークショップを、自身の興味・関心及び進路希望に応じて選択し、受講しました。

○実施日 令和6年10月15日(火) 第6・7校時

○講座(10分科会) ※講座No. 1～9は、「令和6年度高大連携事業に係る地域公開講座」を兼ねており、人数には外部参加10名が含まれている。

No	演題 ※()内は講師所属を示す。	人数
1	音声・音楽による人間と機械のコミュニケーション (東北大学)	45
2	万博とオリンピックから建築を考える～都市の祝祭と構造の実験場 (東北大学)	33
3	資料から過去を読み解く (東北大学)	31
4	現象学・マインドフルネス・教育データサイエンス (宮城教育大学)	40
5	社会起業家の育成 (宮城大学)	33
6	ストレスマネジメント (宮城大学)	103
7	AI・データサイエンスを学ぶと何ができるようになるか～プログラミングでオリジナル画像認識AIを作ろう～ (東北学院大学)	26
8	エレクトロニクス研究の最前線 (東北工業大学)	10
9	東北地方の方言 (宮城学院女子大学)	55
10	社会に役立つ数理技術、数理最適化と未来社会工学 (筑波大学)	17

<生徒の感想>

●本講義を受講して、今までは大学を「自分の学びたいことを学ぶ場」としか考えていませんでしたが、「社会のために自分に何ができるかを学び、考え、深める場である」ということに気づくことができました。これからは、自分のしたいこと、将来の夢を達成させることだけでなく、それらをどのように社会に生かせるか、何ができるのかを考えていきたいです。また、数学の力がこれからの新しい社会の形に不可欠だと分かったので、数学に力を入れていきたいです。 【大学模擬講義】

●僕は将来医学の道に進み、患者の助けになりたいと思っていたが、直接助けるのではなく今日の講義のように、AIを使って患者の負担の軽減をすることができるロボットを自分で作れるようになり、間接的に関わるといった職業に就くのも良いなと思いました。将来ほとんどの職がAIに奪われると聞いて、アルバイトなどができなくなってしまうと心配していたが、人間独自の会話や臨機応変な行動がAIは苦手と言っていたので、マニュアル通り動く人間ではなく、気遣いができる人間になりたいと思います。 【大学模擬講義】

志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☒ もとめる ・ ☐ はたす
------------	--

活動名	<鰐陵塾>
教科・領域等	「総合的な探究の時間」2単位時間相当
活動学年等	第1学年及び第2学年
ねらい	各界の第一線で活躍している本校の卒業生の講演を聴かせることにより、視野拡充・知識欲喚起・建設的自己実現の契機とさせる。

【実践内容】各界の第一線で活躍している本校の卒業生の講演を聴き、視野拡充・知識欲喚起・建設的自己実現の契機としました。

○実施日 令和7年1月21日（火）

○内容 講師 本校71回生 映画監督・CMプロデューサー 庄司 輝秋 氏
演題 「転がる石の人生」



<生徒の感想>

●今回、庄司さんのお話を聞いて、とても共感しました。今の私の周りには、夢という強い志を持つ人がたくさんいて、自分自身がこれまで持っていた目標に恥ずかしさを感じていました。でも、お話を聞いて、「答えをピンポイントで当てる」という事がすべてではないと強く感じました。「寄り道」は無駄なことで、自分にとって利益はないと思っていたけれど、その経験も後々自分の役に立つかもしれないし、無駄ではないのだと考えられるようになりました。これからの高校生活で、たくさん寄り道をしながら、自分のやりたいことを見つけられるように頑張ります。 【鰐陵塾】

●庄司さんが最後におっしゃった、「とにかく動き続ける」という言葉が、今の僕にとっても重要だなと思いました。僕も未だにやりたいことが決まっていないのですが、庄司さんの言葉で、小さな事でも良いから動き続ければきっと道は開けるのだと理解しました。僕はこれからの日々で少しずつでも動き続けようと思います。そして、自分だけの道を見つけたいと思います。

【鰐陵塾】